

主題：
聖書の中の極めて重要な命の啓示

メッセージ 9

神の息を持つ神の人

聖書：創 2:7. ヨハネ 20:22. II テモテ 3:14-17. エゼキエル 37:1-14

I. 神の究極の目的は、一人の団体の神・人を得て、神の団体の現れとすることです。神が願うのは良い人ではなく、神・人、すなわち神の息を持つ神の人です——ヨハネ 1:1, 14. I テモテ 3:15-16.

II テモテ 3:16-17：

A. 「エホバ・神は土のちりで人を形づくり、その鼻の中に命の息を吹き込まれた。すると人は生きた魂となった」——創 2:7：

1. 人の体の中に吹き込まれた命の息は、人の霊となりました——箴 20:27. ヨブ 32:8.
2. 人の体の中に吹き込まれた命の息は、神の永遠の命ではなく、神の霊でもありません。しかし人の霊は神の命の息から出て来たので、神の霊にとっても近いのです——参照、創 2:8-9.
3. ですから、霊なる神と人の霊との間に伝達があり得ます。そして人の霊は神と接触し、神と一になることができます——ローマ 8:16. I コリント 6:17.

B. 「彼は……彼らの中に息を吹き込んで言われた、『聖なるプネブマを受けよ』」——ヨハネ 20:22 (原文)：

1. 聖なるプネブマは聖霊、あるいは聖なる息です。
2. ヨハネによる福音書には、三つのすばらしい言葉があります。それは「言」、「肉体」、「息」です。言は神であり、肉体は人であり、息はその霊です——1:1, 14. 20:22.
3. 言は肉体と成って法理的な贖いを完成し、次に復活して聖なる息となり、わたしたちに内住してわたしたちを供給し、有機的な救いを得させます——ヨハネ 1:14, 29. I コリント 15:45 後半. ローマ 5:10. 10:12-13. 参照、哀 3:55-56.

C. 「聖書はすべて、神の息吹かれたものであり」——II テモテ 3:16 前半：

1. 聖書、神の言葉は神の息吹です。
2. 神の語りかけは神の息吹です。ですから、彼の言葉は霊、あるいは息です——ヨハネ 6:63.
3. ですから、聖書は、その霊としての神の具体化です。それゆえに、その霊はまさに聖書の本質、実質です。それはちょうどリンがマッチの本質的な実質であるのと同様です。わたしたちは、わたしたちの霊で聖書の霊をこすって、神聖な火をつけなければなりません。

D. これらのすべては、神の息を持つ神の人となるために、わたしたちの霊を訓練し、絶えずその霊を受け、神の言葉を吸い込む必要があることを啓示しています——I テモテ 4:7. ガラテヤ 3:2. エペソ 6:17-18 前半。

II. 召会の衰退に対する神聖な予防の抗毒剤は、神の息吹かれた聖書であり、教え、戒め、矯正し、義の中で訓練するのに益があります。それは、神の人があらゆる良いわざのために十分に装備されて、完全な者になるためです——II テモテ 3:14-17：

A. 聖書は神の息であり、この息は霊であり、霊は命を与えます——ヨハネ 6:63：

1. わたしたちが聖書を読むことは、神を吸い込んで命を得ることであるべきです。わたしたちが聖書を教えることは、神を息吹き出して命を分け与えることであるべきです——使徒 6:4.
2. わたしたちは霊の中で、すべての祈りと願い求めによって聖書を読んで神を吸い込み、その

霊としての言葉を供給して、神を人の中に息吹き込む必要があります——エペソ 6:17-18 前半。使徒 6:10。Ⅱコリント 3:6。参照、詩 119:130, 133, 140。

B. 神の側で、聖書は神の息吹です。わたしたちの側で、聖書はわたしたちが神の息を受けて、四つの事で益を得ることであります。それは教え、戒め、矯正、義の中の訓練です：

1. 教えとは、啓示に等しいのです。教えることはおおいを取り去って、人に三一の神と彼のエコノミーに関することを見せることです——エペソ 1:17。3:9。参照、ヨブ 10:13。
2. 戒めとは、わたしたちが見た啓示から来ます。わたしたちは神の何かを見るときはいつも、自分の失敗、過ち、欠点、罪を認識し、その結果、戒められ責められます。わたしたちは神を見て、神を知り、神を愛するようになればなるほど、ますます自分を忌み嫌い、自己を否むようになります——参照、イザヤ 6:1-8。ヨブ 42:5-6。マタイ 16:24。
3. 矯正とは、戒めに続き、間違っているものを正しくし、人を正しい道へ戻し、真つすぐな状態に回復することです——参照、マタイ 7:13-14。ヤコブ 5:19-20。
4. 義の中の訓練とは、神聖な教えを受けて、わたしたちが生かし出す義としてのキリストを享受し、神聖な訓練を受けて、神と人に対して正しくなることです——ピリピ 3:9。

C. 神が聖書の教え、戒め、矯正、義の中の訓練を通してご自身を息吹き出した結果は、神の人があらゆる良いわざのために十分に装備されて、完全な者になることです——Ⅱテモテ 3:17：

1. 神の人は神・人であり、神の命と性質にあずかり（ヨハネ 1:12-13。Ⅱペテロ 1:4）、神の命と性質において神と一であり（Ⅰコリント 6:17）、それによって神を表現する人です。
2. 神の息吹は神・人を生み出します。わたしたちは祈りをもって聖書を読むことによって、絶えず三一の神を吸い込み、啓示、戒め、矯正、義の中の訓練を受ける必要があります。

Ⅲ. 神の息としての神の言葉を受け取って、神で構成されることは、その霊の剣としての神の言葉を受け取って、神の敵を殺すことでもあります——エペソ 6:17-18 前半：

- A. サタンはわたしたちの外側の敵であるだけでなく、わたしたちの内側の敵でもあります。この内なる敵を対処するためには、言葉の殺す力を経験し、聖書の恒常的な言葉をもって祈り、それをその霊の即時的な言葉とならせ、キリストの花嫁を用意する必要があります——ヨハネ 6:63。エペソ 5:26-27。啓 2:7。
- B. 剣、その霊、言葉は一つです。聖書の恒常的な言葉が即時的な言葉（その霊があらゆる状況の中で、その時に語る適用された言葉）となる時、その言葉は剣としてのその霊であり、敵を殺します——ヘブル 4:12。
- C. わたしたちが霊の中ですべての祈りによって、神の言葉を受け取れば受け取るほど、わたしたちの中の消極的な要素はますます殺されます。最後には、最も害を与える敵、からだの敵である自己が、死に渡されます——参照、啓 1:16。2:16。
- D. わたしたちは、内側の消極的なものによって悩まされるときは、いつも霊の中で、すべての祈りによって、神の言葉を受け取るべきです。わたしたちの中の消極的なものが祈り読みを通して殺されるとき、主は勝利を得ます。
- E. わたしたちはその霊としての言葉を受け取ることによって、召会生活と務めの中で守られます。この言葉は殺す剣、すなわち霊的な抗生物質となって、わたしたちの内側の「病原菌」を殺し、わたしたちが健康なからだの生活、健康な召会生活をするようになります。
- F. 勝利者は主の言葉を守り、常に主に来て、書かれた言葉の中で生ける言葉としての主と接触します。そして主が彼らの中で、分与する霊としての適用された言葉となるようになります——啓 3:8。ヨハネ 1:1。5:39-40。6:63。

G. 勝利者は神の言葉としてのその霊で完全に構成されて、キリストの花嫁また新しい人、すなわち団体の神の人となり、殺す剣としての神の息をもって神の敵を滅ぼし、神の子たちを出現させます——啓 2:7, 22:17 前半, 19:13-15, IIテサロニケ 2:8。

IV. エゼキエル書第 37 章 1 節から 14 節は、どのようにして神の霊が息としてわたしたちの中に入ってわたしたちを生かし、わたしたちが団体のからだとなって軍隊に形成され、神の住まいとして建造されるかを啓示しています：

A. 枯れた骨のビジョンが見せているのは、神が入って来てわたしたちを更新し再生する前、わたしたちは罪深く汚れていただけでなく (36:25)、死んでいて、さまざまな罪深い、この世的で、宗教的な事物という「墓」の中に葬られていたということです (37:12-13)。

B. わたしたちは死んで枯れた骨のように、ばらばらで散らされており、一がありませんでした：

1. わたしたちが救われていない罪人であれ後退した信者であれ、これがわたしたちの状況でした。不信の罪人が彼らの墓から解放される必要があるだけでなく、多くの兄弟姉妹でさえ復興され、死から、また彼らの墓から解放される必要があります。
2. 今日、多くのクリスチャンが、宗派、分派、分裂、独立グループ、さまざまな運動という墓の中に葬られています。
3. 以前、わたしたちはそのような墓の中において、死んでいて、枯れており、散らされており、ばらばらであって、だれとも結び付けられていませんでしたが、主は死人の救い主です。この神の言葉は、死んだ人を生きた人とならせます——ヨハネ 5:25, エペソ 2:1-8。

C. エゼキエル書第 37 章のエゼキエルの預言は、予告する事柄ではなく、主を語り出し、宣言し、主のために語るという事柄です——4-5 節：

1. エゼキエルが語り出したとき、神は人々にその霊を与えました——10, 14 節。
2. 聖書で預言することの主要な意義は、予告することではなく、主を語り出し、主を人々に供給することです：
 - a. 「預言する者は召会を建造します」——I コリント 14:4 後半。
 - b. 「あなたがたはみな一人ずつ預言することができるからであり、それはすべての人が学び、すべての人が励まされるためです」——31 節。
 - c. 預言すること、すなわち、神を内容として、神のために語り、神を語り出すことは、聞く人に神を供給し、彼らを神にもたらしめます。召会の集会は神で満ちているべきであり、そのすべての活動は神を人々に伝え、伝達して、彼らが神を注入されることであるべきです——24-25 節。
 - d. 預言することはわたしたちを勝利者にします。預言することは勝利者の機能です——I コリント 14:3, 4 後半, 参照、マタイ 16:18。
3. エゼキエルが預言していたとき、神は枯れた骨に吹いて、風、息、霊を送っていました——エゼキエル 37:4-10, 14：
 - a. 「ルアハ (ruach)」というヘブル語は、5 節から 10 節と 14 節で「風」、「息」、「霊」と、さまざまに訳されます。
 - b. 霊的な経験において、神がわたしたちに吹くとき、彼の息は風です。わたしたちが風を呼吸するとき、それは息です。息がわたしたちの内側にあるとき、それは霊です。
 - c. エゼキエルが預言したとき、神は風を吹かせ、人々は息を受け、息は霊、命を与える霊と成りました——I コリント 15:45 後半, II コリント 3:6。

D. 召会の集会の中で預言すること (主のために語り、主を語り出し、互いの中へと主を語り込む

こと)は、聖書の中の最大の予言を成就します。すなわち、(一の中で、極めて大きな軍隊として)召会を建造することを成就します——マタイ 16:18. I コリント 14:4 後半. エゼキエル 37:4-10。

© 2017 *Living Stream Ministry*